



福井商工会議所

こちら デジタル活用  
ビジネス支援センター

10月19日(木)・20日(金)開催  
北陸技術交流  
テクノフェア2023  
現場を変える技術が  
福井に集結!

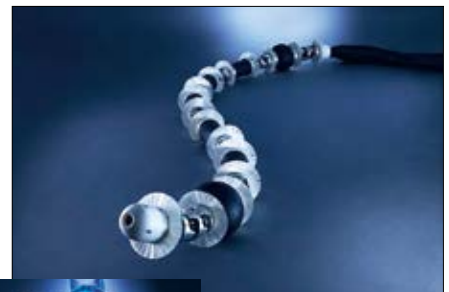


北陸最大級の総合技術展示会「北陸技術交流テクノフェア2023」を、10月19日(木)・20日(金)に福井県産業会館にて開催します。34回目を迎える本フェアは、福井・北陸を中心に全国から180を超える企業・団体が出展し、新たな技術や連携が生まれるきっかけを創り出します。今回は「現場を変えるデジタルものづくり」をテーマとした特別企画展に出展する企業3社の製品・技術をピックアップしてご紹介いたします。

狭い空間での点検・清掃に  
ミニズ型ソフトロボット

(株)ソラリス(本社東京都)

(株)ソラリスは中央大学発のベンチャー企業で、世界初のソフトロボットメーカーです。同社が開発した管内走行ロボット「Sooha(ソーハ)」は、独自技術である「空気圧人工筋肉」によって、ミニズのように伸縮しながら配管等の中をすんなやかに移動することができます。360度の画像データを収集し、人力や従来のハードロボットでは対応が困難な狭い場所での清掃や点検作業を担うことができます。



ミニズ型ソフトロボット「Sooha」(上)。内容物を「運ぶ」「混ぜる」を同時に行う腸管型ポンプロボットも展示予定です。

すでに下水道圧送管検査にも用いられるなど、実用化が進んでいます。ほかにも、レスキュー、医療、細管検査等の分野での活躍が期待されています。

同社のソフトロボットのコア技術である人工筋肉は、収縮力が従来のものと比較して約4倍の出力を誇り、また、20%程度の空気圧で駆動できるなど省エネの観点からも優れています。さらに電気やモーターを使用していないため、可燃性のある危険物の運送や水中での作業にも対応できるなど、活用範囲の幅を広げており、人手不足の解消に向けた人間とロボットとの共生社会の実現に一役買っています。

出先事務所で資料や図面への  
メモ書きをリアルタイムに共有

(株)MetaMoji(本社東京都)

(株)MetaMoji(メタモジ)が提供する「GEMBA Note」を利用すると、タブレット端末上に保存されている資料や図面に、その場で書きメモ等を付け加えることができます。さらにそのメモとして残した情報は、別の端末にリアルタイムに共有されます。

単にペーパーレス化を図ることができるだけでなく、顧客との打合せを行いながら、事務所の従業員とタブレット端末を通して瞬時に情報共有ができ、相手の質問に対して、「事務所に戻らないと返答できない」という場面を減らす事ができます。



「GEMBA Note」の利用イメージ。現場と事務所間のやり取りを時差なく行うことが可能です。



現場で気になった箇所の画像をメモ付きで共有することで、ミスコミュニケーションを減らすことにも繋がります。

さらに現場で撮影した写真や動画を資料・図面に貼り付けることもできるため、確認や点検が必要な箇所の確かな指示出しも可能です。

**群制御されたモバイルロボット  
搬送効率の最適化を実現**

**オムロン株（本社京都府）**

幅広い制御機器の開発を得意とする同社では、それらとロボットを組み合わせたロボットアプリケーションを提供しています。

同社のモバイルロボットは、自律走行型搬送ロボットで、工場を巡回し棚の位置や通路をスキャン、自動で搬送ルートを作成します。また、スキャン時にはなかった障害物や作

業員を感知すると自動で避けることも可能です。

最大100台まで一括管理することができるとも特徴の一つです。ソフトウェアからロボットの現在位置や稼働状況・空き状況を常時監視でき、タクシーの自動配車システムのように複数台のロボットに役割を振り分ける「運行管理機能」、ロボット運行ルート上の交差点ポイントでの通過タイミングを調整する「交通整理機能」、それぞれのロボットがスキャンし作成したマップの「一元管理機能」など、工場内での搬送効率を最適化するためのシステムが搭載されています。



モバイルロボットは「第10回ロボット大賞」の経済産業大臣賞を受賞しています。当日は協働ロボットも展示されます。



製造業における  
新サービス提供のヒントに

「北陸技術交流テクノフェア2023」の開催に先立ち、10月3日(火)、福井商工会議所ビルにて国立研究開発法人産業技術総合研究所(産総研)、人間拡張研究センター長の持丸正明氏を講師に招き、「ものづくり特別講演会」を開催します。

本講演会は「『デジタルことづくりに』に向けて『人間拡張技術による製造業のサービス化』と題し、ものづくり現場でのデジタル技術の導入・活用が進む現在において、顧客にとって価値のあるサービスをどのように生み出していくべきか、解説させていただきます。



産総研 人間拡張研究センター  
研究センター長 持丸正明 氏



産総研では、デジタル技術等を活用したウェアラブル(装着できる)・インビジブル(見えずにそばにある)なシステムの社会実装を目指す人間拡張について研究しています。

日本最大級の研究機関である産総研から見た、ものづくりの新たな方向性とは何か。ぜひご聴講ください。なお、テクノフェア当日、産総研による展示ブースも設けられます。10月19日(木)・20日(金)はぜひ福井県産業会館までお越しください。

本件に関するお問合せ先  
**技術交流テクノ  
フェア実行委員会**  
[事務局]産業技術・DX推進課  
☎0776-33-8252

講演会の  
申込・詳細は  
コチラ →

